



993号
2024年11月19日
郵政産業労働者ユニオン
呉支部発行

←中国地本HPへ
PC・スマホ等から
この情報が閲覧可！



メールはこちら→



郵便事業は赤字拡大

決算の概要

11月14日、2025年3月期第2四半期の決算が発表された。

日本郵便以外は黒字を確保した。

郵便・物流事業

取扱数量は横ばいとなった。郵便は3.3%減、ゆうメールが12.4%増、ゆうパックが1.1%増

2025年3月期 第2四半期(中間期)の経営成績 (億円)

	日本郵政グループ	日本郵便	ゆうちょ銀行	かんぽ生命
経常収益	55,119	16,449	12,551	29,434
前年中間期比	△1,062 △1.9%	623 +3.9%	△443 △3.4%	△1,705 △5.5%
経常利益	4,633	△651	3,214	1,668
前年中間期比	+1,281 +38.2%	△422 (-)	+676 +26.6%	+675 +68.0%
中間純損益	1,394	△683	2,228	628
前年中間期比	+192 (+16.0%)	△472 (-)	+406 +22.3%	+124 +24.7%

非支配株主持分を含む四半期純利益は、2,624億円と前年同期比489億円増

2025年3月期 通期業績予想 (2024年5月公表)

経常利益	7,600	△20	5,250	2,000
中間進捗率	61.0%	(-)	61.2%	83.4%
当期純利益	2,800	△160	3,650	790
中間進捗率	49.8%	(-)	61.0%	79.6%

加し、ゆうパケットは18.6%増加した。営業収益が前期比23億円の9,392億円。営業費用は415億円増の10,340億円。営業損益は△947億円と赤字を計上(前期比△439億円)。

事業赤字は拡大した。

郵便局窓口事業

保険・銀行手数料等の減少が続く、営業収益は前期比55億円の減の5,084億円。

営業費用は、前期比37億円の増の4,866億円。営業利益は前期比93億円の減の217億円。

国際物流事業

営業損益が前期比11億円の増の45億円。

フォワーディング事業の収入増加で営業収益が350億円増収となった。

不動産事業

日本郵便や日本郵政不動産などの不動産における営業収益は前期比23億円の増の463億円。

分譲住宅の販売や賃貸等における収益が利益を押し上げた。

営業損益は前期比11億円の増の101億円。

営業収益は分譲住宅の販売利益が177億円で、

賃貸は前年同期比60億円増270億円との順調な成果を上げている。

日本郵便

営業損益が前期比42億円の減の△626億円。前期△201億円と赤字幅が拡大した。

営業収益が前期比614億円の増加したが、営業費用1,003.8億円増加の影響が大きい。

中間純損益は△683億円と前期△210億円から△472億円と悪化した。

10月1日からは郵便料金値上げが実施されたが、効果が表れるのは先である。

また、値上げによる郵便利用減少の影響など、見逃せない点があり、値上げで問題解決とはならない。会社はゆうパック増加に力を入れているが、利用

増加率から市場が求めるサービスは、パケット系郵便に変化している。

ゆうちょ銀行

連結業務純益は、前期比1,506円増の5,284億円。

中間純利益は前年同期比406億円増の2,228億円。

資金利益が前年同期比1,150億円増の4,526億。

事業内容として、順調といえる決算である。

かんぽ生命

基礎利益は前期比15億円の減の1,162億円。中間純利益は628億

円で前年比124億円増。保有契約件数は減少したが、横ばいに近くなっており、改善の兆しが見える。なお、新契約年換算保険料も増加している。

今後の予定

● 12月 3日(火) 17:00~
第4回呉支部執行委員会
支部事務所

● 11月29日(金) 18:00~
忘年会
場所 四川料理110
呉市中央2-5-2

参加費
一人2千円

次号は 12月 3日 予定